

## 平成22年6月 第2回経営協議会議事録

I. 日 時 平成22年6月29日(火) 14時00分～15時06分

II. 場 所 千葉大学事務局 第二会議室(5階)

III. 出席者 齋藤学長、赤田、有馬、井上、大宮  
山本、北村、野波、嶋津、池田、堀、瀧澤、木庭、河野各委員  
(欠席:加賀美、黒木、佐久間、桜田、西村、船橋各委員)  
陪席者 来栖、西川各監事

IV. 前回経営協議会議事録について  
原案のとおり承認された。

### V. 審議事項

#### 1. 中期目標期間の業務の実績に係る報告書(案)について

学長から、中期目標期間の業務の実績に係る報告書(案)について審議願いたい旨提案があった後、山本理事から資料に基づき説明し、審議の結果、承認された。

なお、学長から、本件は本会議終了後に開催される役員会で審議のうえ決定し、6月末日までに文部科学省へ提出する旨の説明があった。

#### 2. 第1期中期目標期間における事業報告書(案)について

学長から、第1期中期目標期間における事業報告書(案)について審議願いたい旨提案があった後、池田理事から資料に基づき説明し、審議の結果、承認された。

なお、学長から、本件は本会議終了後に開催される役員会で審議のうえ決定し、6月末日までに文部科学省へ提出する旨の説明があった。

### V. 報告事項

#### 1. 科学研究費補助金の採択状況について(○:学外委員、◎:学内委員)

野波理事から、本学の科学研究費補助金の採択状況について、資料に基づき報告があった。また、学長から、教員全員が応募して欲しいので、研究推進チームで対応策を検討する旨の発言があり、以下の質疑応答があった。

○ 科学研究費補助金の採択率が上がってきたことは、大学の努力と認められる。

○ 科学研究費補助金申請者に対して学長裁量経費から研究費を配分するなど申請者を増やすための制度設計をしている大学の例があるが、千葉大学ではどうか。

◎ 本学でも大型の研究費の申請の場合に、人の手当てなどを大学で支援することはある。加えて、前年度に当落ラインギリギリで採択されなかった研究

に対して、学内経費でサポートして継続させることもある。

- 研究のシーズを育てるためには、インセンティブは必要である。  
研究者個人の研究評価を実施する際に、科学研究費の採択状況が重要な指針となる。
- 真菌医学研究センターと環境リモートセンシング研究センターは平成22年度新規採択率が0%なのはなぜか。
- ◎ 資料には反映していないが、環境リモートセンシング研究センターは、その後、基盤Sで1件採択されており、0%ではなくなっている。また、真菌医学研究センターも昨年度までは、新規採択率が20%超で推移しており、今年度はたまたま新規分が0%であった。引き続き、研究活動の活性化を促していきたい。

以上